



ボプラの成長に目を細める鳥雲さん

ちと一緒に苗木畑の雑草取りに汗を流していた。

生活できる地にしたい

名誉顧問・日本人の烏雲さん 率先して水運び

なんぐりモンゴリが学費を支援している。単に「緑化」が目的ではなく、次代を担う子どもたちが幸せに生きる環境を整えていく活動だ。その理念も、鳥雲さんから伝授された。

鳥雲さんは、中国残留孤児。旧満州（中国東北）で終戦を迎えて、ソ連軍に襲われて孤独の身に。蒙古族の養父母に育てられ、教師となつた。ど、どんぐりモンゴリ理事長の角和保明さん（六三）は話

はた 理地のノたむに

率先してスコップを握り、バケツで水を運び続

砂に埋もれていく=いずれも中国の内蒙古で

自ら教員を務めた地域で、地元住民の自主的な植林活動を開催。全国組織の「沙漠植林ボランティア協会」の菊地豊会長(七四)の全面支援で、烏雲森林農場も誕生した。

た。 ちと暮らすため、中国に戻り、砂漠の緑化に情熱を注ぐようになった。教師時代、登校しなくなつた内蒙古の中学生たちから「砂漠で烟がなくなり、貧しくなつた」と聞かされたことが動機だつ

した。現地では、子どもたちの支援者として有名な角和さん。呼称は「先生」だが、老師の域に近づいている。

鳥雲さんは「私が日本人の中に中国に戻り、日本の人人がどう思つか心配したことわざつた。でも逆に皆さんが感動してくれる。私の一生は本当に幸せ」と白い歯を見せた。

新刊紹介

◇「山わたる風」伊藤健次写真・文（柏
舩舎 1890円） りりしく、愛らしい野生
生物と風景の写真エッセー。野生の生命力
や土地の記憶をテーマとする写真家が、大
雪山、日高、知床など北海道の山野を歩い
た。朝日新聞北海道版の夕刊の連載を再構
成。

